



ハタラクヒト *ペディア

<井野寛祥 氏>

田中永子

はじめに

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りをしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。

行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第15回は、

株式会社 丸来（まるらい）の代表取締役でいらっしゃいます 井野寛祥さんです。

井野寛祥氏



会社のモットー&セールスポイント：地域に愛されるお店づくり

看板メニューの萬焼と生パスタを使ったスパゲティが売りです！

料理の味だけではなく、アットホームな雰囲気と居心地の良さを提供できるお店を目指してます！

趣味：野球観戦、アウトドアクッキング、飲み歩き等

好き（なもの）：ビール、芋焼酎、ヒラメのお刺身、落合博満、高田純次、野球、焼肉、娘、八重歯の女性

海老、蟹、熱帯魚、iPhone、パズドラ、玉入れ、釣り、車 など

嫌い（なもの）：ネギ、生の玉ねぎ、暑い日、ゴキブリ、請求書 など

連絡先：株式会社 丸来

愛知県刈谷市住吉町5-12

0566-23-0838

ino@marurai.com

◆コックを目指そうと思ったのは家が飲食店をやっていたから

井野寛祥さん（以下敬称略：井野）： ぼく、あんまりおもしろくないですよ。ネタがないので。ふふ。

田中（以下：田中）： そんなこと（笑）井野さんは、2代目さん？

井野： そうです。

田中： 私、以前ちょくちょくお邪魔してたんですよ、こちら。この近くに友人がいるので、遊びに来た時、ランチに行こうかとか。

井野： ありがとうございます。

田中： いえいえ。メニュー増えてますよね。パスタもおいしかったし。これは、井野さんに代わられてから？

井野： そうですね。

田中： いつから、跡取りさんというか、こちらに？

井野： 14～5年前ですね。

田中： えっと、今おいくつだっけ？

井野： 40です。

田中： 40？じゃあ、若くして。15年前だと、25だもんね。

井野： 25じゃないですね。26くらいです。

田中： へえ……それまではどんな感じだったんですか？

井野： それまでは。まず、高校行きたくなかったんですね、ぼく。

田中： うん。行きたくなかったの？

井野： 時間もったいなかったんで。

田中： 何の時間が？

井野： 料理人になる時間。

田中： ああ、じゃあ、結構前から、「料理人になるんだ」みたいな。

井野： そうですね。小学校ぐらいから。

田中： すごい！

井野： 「コックさんになる」って、決めてたんです、ずっと。でも手伝いはしてなかったんですよ、うちの。

田中： ええ。

井野： 野球やってたんで。キャッチャーじゃないですよ（笑）

田中： え？ なんで（笑）？

井野： 野球やってたっていうと、大体ガタイだけ見て、「キャッチャー？」って。はははは。

田中： イメージ？ どこやってたの？

井野： ぼくはですね、いろいろやりましたね。どこでも出来る人です。

田中： オールマイティだったんですね。

井野： ていうか、定着しなかっただけです（笑）

田中： ふふふふ。

井野： そうです。最初内野をやって。サードやったら肩が悪くて。

田中： サードは、ファーストに投げるし。肩強くないとね。

井野：　そうです。外野もやって。ピッチャーやったら、コントロール悪くて（笑）

田中：　あははは。

井野：　で、キャッチャーやって（笑）これはぼくが辞退したんです。怖かったから。

田中：　だって、すぐ横でバット振られちゃうんだもんね。

井野：　そう。1回、頭に当たったんですよね。バットがかすったんです。

田中：　うん。それは怖い。

井野：　ファールチップが顔に当たったとか。で、キャッチャーは辞退して、セカンドやって。セカンドって、結構頭使うでしょ？で、頭がついていなくて、結局捕るだけでいい、ファーストに落ち着いたんですよ。ふふふ。

田中：　ふふふ。ファーストも足、開けないとだめでしょ？

井野：　ええ、足短いですから（笑）

田中：　ふふふ。股関節が柔らかければいいんじゃないの。

井野：　ふふふ。その落ち着いたファーストも、左利きののが有利じゃないですか。

田中：　たしかに。

井野：　左が2人いたんですよ。結果、補欠で（笑）

田中：　あははは。

井野：　少年野球は父兄の出席率が高いとこの子をレギュラーにしないわけにいかないじゃないですか。

田中：　そういうものなの？

井野：　そういう子がどんどん試合慣れして。結局試合で慣れないと、技術的に上手くならない。ルールにしろ、塁にしろ、経験するのがいいのかなって。その経験がなかったんですね、や

っぱ。うち仕事やってるわけで、普段は顔出せないし。たまに監督、コーチがお昼食べに来たりはあったんですけど。

田中： なかなかね。

井野： そのまま中学行くじゃないですか。で、この辺りは3つの学区から来て、結構な人数になる。上手い子も集まるから、勝ち目ないですよ、そもそも。背番号もらえず、悔しい思いはしたんですけど。でも、「よかったな」って思ってますけどね。おかげで忍耐力が出来ましたね。

田中： 体育会系って、結構理不尽なとこ、あったりするんだけど。そこでちゃんと立ち回れるとか、さっきおっしゃった忍耐力とか、そういったものが培われるのかなって。

井野： そうそう。昔はそうでしたよね。今もある程度はあると思うんですけど。なんかこう、ね。叩いたり蹴ったりがないじゃないですか。ぼくらの頃は、それはすごかったんで。

田中： うん。

井野： ぼく、イチロー世代です。

田中： おー。同い年？

井野： 同い年ですね。すごいですね、イチローは。歳は同じなのに（笑）

田中： それでえ、「高校行きたくない」って言ってたけど、行ったの？

井野： 行ってないですね。あ！ 行きました。行ったけど、調理師学校！

田中： あー。

井野： 調理師の免許も一緒に取れて、高校の資格も取れるっていう、その高校に。

田中： すごいねえ。

井野： 1年得するじゃないですか。高校卒業してから、調理師学校に行くより。

田中： うん。

井野： 中卒で調理師学校という道もあったんですけど、ちょっと親が反対して。「高校ぐらいは出といた方がいい」ということで。いやいや行きました（笑）

田中： ふふふ

井野： でも、調理師学校兼ねてるんで、3年生の時なんかは週に17～8時間、調理実習の時間ですよ。

田中： すごい。

井野： 普通科の勉強は1年、2年でほとんど終わらせて、後は栄養学だとか公衆衛生とかを勉強しながら、調理の実習をやる。

田中： すごいね。

井野： いやいや、すごくないですよ。

田中： 小学校から「コックさんになる」って決めてたわけでしょ？ それって、どうやって決めたの？

井野： 家庭環境ですよ。もう、普通に個人の飲食店だったので。

田中： うん。

井野： 帰って来れば店はやってるんで、夜も営業して。当たり前みたいに親も調理場で料理作って出して、お客さんもいるし。「店に出てくるな」って、よく言われて（笑）

田中： あー。

井野： 店が終わるのは、大体9時ぐらいなんで。その時間になると、ぼくらは眠くなっちゃって。そんな生活でしたね。その生活を、今娘がしてますけど。

田中： うん。

井野： まあ、「どう見てくれるのか？」って。ちょっと不憫に思う人もいるかもしれないし。でも、自分が育ってきた環境の中では、やっぱり、「親父がかっこいいな」というのがあった

んで。

田中： うんうん。

井野： 憧れとね、やっぱり「長男として、店を継がなくちゃいかん」というのを、おばあちゃん、おじいちゃんからも結構圧力がかかるんで（笑）

田中： あははは おばあちゃんたちからはそういう話をされてて。

井野： うん。ありましたね。

田中： でも、そういう環境であったとしても、反発したりする人、いるじゃん？

井野： うーん。ですね。

田中： それが順調に、家業を継ぐんだーって育っていかれたのって。

井野： ですね。ま、たぶん単純に考えてたんでしょね。跡継ぎっていうことで「やるんだなー。やらなきゃいかんのだな」って。

田中： それは、決まってることなんだなっていう？

井野： そうですね。他の選択肢が、ぼくになかったですね。

田中： へえ。

井野： だから、会社入って会社員になるとか、車関係に行こうとか、そういうのがまったくなかったんで。

田中： へえ。

井野： たぶん、自分がやれることって、これしかないって思ってたんでしょね。他に特技がないんで（笑）

田中： ふふふ。

井野： 料理ぐらいは、小さい頃からたまご焼いたりとかしてたんで。だから、そこで行けば、

最悪でも、「お店を継げば大丈夫でしょう」という、たぶん甘い考えがあったのかなって（笑）

田中： あははは。

．．．．． つづく ^^

◆洋食の方が合ってると思うぞ.....その一言が人生を変えた

井野： で、3年生の時、すごくいい先生で。

田中： うん。

井野： 『西洋料理』と『フランス料理』担当の先生がすごくいい先生で。高校3年の半ばぐらいまでは、そのまま『中華』をやろうと思ってたんだけど、そこで小さな反発が出てきて（笑）

田中： ふふふふ。

井野： 迷って。その先生に「多分、洋食の方がいいんじゃないのか。合ってると思うよ」って言われました。

田中： うん。

井野： まあ、嫌いじゃなかったし、洋食にも興味があったんで。それで名古屋のフランス料理のお店を紹介してもらいました。

田中： あー。

井野： 調理師学校って、結局就職率がすべてなんです。新しい生徒さんを入れるためにね。なので、できるだけ就職率100%にしたいわけです。

田中： うん。

井野： でも、そこのお店と学校は、契約とか求人出したりというような接点がなくて。で、その先生が個人的に、友達だったシェフと話をつけてくれて、学校を通さずに就職したんですよ（笑）

田中： ふふふ。

井野： で、学校の就職率、ぼくのせいで悪くなった（笑）

田中： あははは。

井野： その店、入った時すごくよくて。そのシェフがまたすごい人で。

田中： どんなふうに？

井野： フランスで何年かやってた人で、その人がたまたま帰ってきたばかりで。そんな感じですね。

田中： へええ。尖ってるね。

井野： とげとげでしたよ（笑） ぼくらのに入った時、同期が3人いたんですよ。ひとはすぐ辞めたんです。3か月くらいで。

田中： うん。

井野： あと二人残って。エリートの『辻調理師学校』と、ぼくの『名古屋調理師学校』の二人。に入った時に先輩も二人いたんですけど、ひとは独立してすぐ辞めちゃった。

田中： うん。

井野： もうひとは、あまり仕事が上手じゃないというのかな、そう人がいて。すぐに抜かせる状態だったんですけどね。その人も、途中で案の定辞めちゃって。結局、入って半年くらいで、シェフの次になっちゃったんですよ。

田中： すごい（笑）

井野： 3人でやってました。となれば、もう覚えるしかないじゃないですか。

田中： もう盗み放題（笑）

井野： そうそう（笑）ほんとそうっすね。

田中： 笑

井野： フランス料理、見たこともなかったんで。勉強もしてないし（笑） だからぶっつけ本番で、勉強するしかないよね。で、いろいろ食べ歩いたりとか、勉強して。

田中： うん。

井野： ぼく、はじめはデザートから入ったんですよ。そのシェフの話聞いてて。

田中： うん。

井野： 「デザートっていうのは一番料理の最後に出るので、一番印象に残るところ。女性もそれを楽しみに来てる。デザートさえおいしければ、少々料理が口に合わなくてもね」って話を（笑）

田中： 「終わりよければ」的に（笑）

井野： そう（笑） で、その重要性っていうのはすごいよってということ教えてもらってたんで。で、シェフから「最初にデザートやりたいのは、どっちだ？」って言われて、「やります」って。2年ぐらいやりましたね。

田中： すごいねえ。

井野： やり始めた時、ものすごいおもしろくて。やったことないことばかりだし、新鮮で新鮮で。ただ、結構下ごしらえとか時間かかるじゃないですか。

田中： かかりますよね。

井野： うん。なんで、ひとり残って生地仕込んだりとか、そういうのして。

田中： ケーキとか、あったかい内にデコレーション出来ないもんね。

井野： そうです、そうです。12時、1時、2時って時間が経っていきながら、帰るじゃないですか。で、朝6時に出勤して（笑）

田中： あははは。自宅から通ってらしたんですか？

井野： いや、寮で。1年はその状態でしたかね。

田中： 寝袋持ってった方がいいくらいじゃない？

井野： そうなんですよ。自転車で通ってましたけどね。で、1年後に入ってきたんですよ、後輩が。

田中： うん。

井野： その子を自分の下につけて、いろいろデザートやらせて。その子がまたあんまり覚えがよなくて、時間かけながら。デザートを見ながらで、やっとオードブルに行けたわけです。

田中： うん。

井野： 同期の子がやってたんですけど、「この子よりは出来るな」って自分で自信あったんで、やって。その子が今度料理人としては一番上の、肉だとか、ストーブ前でソースを作り始めたり。やっぱり気持ち的には焦るじゃないですか。

田中： うん。うん。

井野： で、もっと「更に勉強しないとな」って思って、料理の本とかもいっぱいあるんですけど。

田中： どれぐらいあるの？

井野： 最近買ってないですけど、100冊ぐらいかな。そんなに多くないですね（笑）

田中： でも『積読（つんどく）』じゃないでしょ？

井野： 『積読（つんどく）』じゃないですね（笑） なんか、ふとした時に。世の中の、あるじゃないですか。

田中： 流れ？ 流行とか？

井野： そう、流行……繰り返しの様な気がしますよね。

田中： ああ。うちの母も洋裁やってて、大体10年サイクルだって言った。

井野： うん。それってなんでもあるじゃないですか。車のデザインでもそうだし。まるっこいデザインが角ばったデザインになったり。要は世の中のメインとなる30代、40代、50代ぐらいの人たちの流行りだったり、ちょっと懐かしい部分を復活させると喜ぶ人がいたり。そういうのが、サービス業の基盤なのかなっていうのがあって。

田中： あー。

井野： だから料理もそうだし、「なんか昔食べたね」とか、鉄板のナポリタンが出てくると、嬉しかったりとか。お客さんの心理の中に引っかかるものを、そうして入れていくと、おもしろいのかなって、常に考えてるんですけどね。

田中： うん。

井野： だからナポリタンもやってるし、父親がやってた料理も。一度、「手間がかかるからやめましょう」ってやめたんですけど、それを復活させて。そしたら、やっぱり昔のお客さん、喜んでですよ。

田中： うん。なんかね、懐かしいメニューなの。

井野： そうなんですよね。

田中： ナポリタンも、わざわざ家用に鉄板買わないから。昔だと出かけた時とかに、入ったお店で出てくるような料理。そんな感じがするの。

井野： うん。だからおじいちゃん、おばあちゃんとか、ナポリタン結構食べるんですよ。病院帰りの。で、ソースかけて食べるんですよ。

※井野さんのお店が『刈谷豊田総合病院』の近くにあるため。

田中： あー。そういえば昔って、カレーにもソースかけてたような。

井野： そう（笑） たぶん昔は調味料が少なかった。ソースか醤油か塩か味噌か。

田中： うん。それで復活させたんですね。

..... つづく ^^

◆お店をやっていると人間力を試される時がある

井野： そうです。ただちょっと今は様子を見てて。もうそろそろ、なくなっていくんですけど。お店も、ちょっと変えたいんですよ。

田中： どんな感じに？

井野： ちょっと企んでるんですけどね。

田中： うん。

井野： 男の人があんまり入りたくないようなお店にしようかなって。

田中： 女性ターゲットで。

井野： 女性ターゲットで。

田中： うん。以前伺った時は、定食屋さんって感じがしていて。そこからだいぶ雰囲気とか変わって、女性が入りやすくなったような感じがします。

井野： そうですね。ここまでが限界でしたね。変えようと思ったのは、父親の代のメニュー、古くからのお客さん、そこから少しずつ変えてかないと、まずいんですよね。

田中： 急激な変化っていうのはね。

井野： 内装をこれにした時も、昔のお客さんに街中で会うと、「あんたんところ、入りにくくなったね」とか、そういう話も結構あったんで。

田中： そうかあ。

井野： 要は明るくてきれいになりすぎたから、恥ずかしくて入りにくいとか。そういう心理なのかなって思いますね。

田中： どれぐらい前に変えられたんですか？

井野： これは、14～5年前ですかね。

田中： じゃあ、井野さんが入られて。

井野： 1年後ぐらいですかね。

田中： で、今度はもっと変えるんだ？

井野： そうそう。壁紙を全部とって、黒板を3枚、おっきいのをつけます。そこにおすすめを書いて。

田中： バルみたいなの。

井野： そんな感じのイメージですね。テーブルに調味料とかも、やなんですよ、ぼくん中では。

田中： これは定食屋さんの名残かなって感じですね。

井野： ですね。結局、ソースとかかけないといけないものを出してるからなんですよ。キャベツがついてたりとか。

田中： 調味料がなしで、いただけるような。

井野： ですね。でもひとりでは出来ないの。ひとりだと、お店は出来ても外が出来ない。大府のお店とかも。手薄になっちゃうと、いかんですね。

田中： うん。

井野： なんで、右腕、左腕が欲しいんですね。常に探してるんですけど、出来そうかなって思う頃になると、そういう子って独立しちゃうわけです。

田中： うん。

井野： 結局そういう悩みってというのは、飲食やってる以上はずっとおつきあいしてかなきゃいけないなって思うんですけどね。だから、パートさんやアルバイトさんとか、そういった子でやれるようなものにして。

でも、それは質を落とすんじゃなくて、マニュアルだったりとか、分量をしっかりと決めるとか、そういう管理の仕方をしないといかんのかなあって思いますね。「やってね」と指示すると、案

外やれるんですよ。

田中： うん。

井野： 大府のお店もフードコートみたいな感じで、パートさんとアルバイトの子で回してて、常にひとりしかいないんですよ。最初は、二人が常に入ってる状態だったんで、人件費も結構かかってたんですけど、中の意識改革をして。スタッフと話をして。

田中： ええ。

井野： 偉そうな人の使い方、ぼく苦手なんですよ。「あれやれ。これやれ」とか。

田中： 上からではなくてね。

井野： そうです。そういうのが苦手なんですよね。苦手でもよかったなって思う時があるんですけどね、最近（笑）

田中： ふふふふ。

井野： 呼び捨てで、呼ぶのもいやなんです、ぼく。

田中： あー。相手の方をね。

井野： そうです。従業員の子も必ず、「くん」とか「さん」とか。なるべく、名字にさん付けで呼びたいなっていうのがあって。

田中： それって、すごい大切な気がする。呼ばれ方って、相手にどうとられるか、わからないってところがあると思うし。よくご年配の方に声をかける時に、「おじいちゃん」とか言いがちだけど、知らない人にそういう呼ばれるのは好ましくないって思ってるとか。

井野： ですよ。

田中： だから摩擦が起きにくいって、名字にさん付けなのかなって。やっぱり距離感って、人それぞれ違うと思うので。井野さんがおっしゃるみたいに、呼び捨てにされて、親しみとを感じる人もいれば、そうじゃない人もいると思うし。そういうの考えると、とても安全な気もします。

井野：　そうですね。何百人と面接してきたじゃないですか、今まで。そこでいろんな出会いがあるわけですね。別れもあれば。ほんとにいろんな子がいますからね。16歳位の子からから60歳くらいまでの人がいて。やっぱり年齢の開きもあるし、60の人が、17～8歳のアルバイトの子をみて、「どう思うのか?」とか。その子と親しくしゃべっていると、「若い子を贖してる」っていうのも出てくるし。

田中：　うん。

井野：　そういうのも過去にあって。人ってタイプがありますからね。ちょっと体育会系でノリよくやってた方がついてくるタイプと、真面目でひとつひとつ細かく説明してあげた方がいいタイプと、時々肩組んで「おいおい。だいじょうぶか?」ってフレンドリーな対応した方がいい子とか、いろんな人がいるんで。その人をみて、判断するのが楽しいですね。

田中：　楽しいんですね。

井野：　今はすごく楽しいですね。「お、ついてきてくれたぞ」みたいな（笑）

田中：　ふふふ。対応力のスキルが上がった感じ、するよね。

井野：　そうですね（笑）自分の自己満足かもしれませんがね。

田中：　いえいえ、ちゃんとお店が回ってるってことは、対応OKってことじゃないですか。

井野：　ですかねえ。育てる途中の子っているじゃないですか。そういう子が、ちょっと調子崩して、お店続けられないとか、実家に戻るとか、結婚しますとか。そういうのがね、ちょいちょいあるんですね。

田中：　うん。

井野：　そういう時に試されてる感が、自分の中ですごくあって。

田中：　なにを試されてるの?

井野：　神さまに、試されてるんでしょうね。

田中：　どんなものを?

井野： 人間力とか……。また試練を与えてくれるんですよね、自然と（笑）

田中： 結構キーパーソンがそういうことになったりしますよね。「今この人に抜ければたら」……みたいな時に限って。

井野： そうですね。意外に勝手な人が多いですよね。休むために嘘をつくとか。でも、それに対して「それ、嘘でしょ？」って反応したり、気にしてても仕方ない。

嘘を追及するために労力を使うよりも、切り離して自分が動いた方がいいって。で、次を見つめたり、見つかるまで自分が全力でカバーするとか。やっぱりそういった方が、いい雰囲気になると思うんですよね。

田中： うん。生産的ですよね。

井野： ですんで、常にそういう考えはしてるんですけど、それだけじゃ乗り越えられないものも多々ありますね。ここしばらく安泰かなって思ってたけど、そういうことがあって。自分も今外に出てたりするんですけど。

田中： お忙しそうでもんね。

井野： うーん。忙しい振りなんですけどね（笑）忙しそうにすることによって、活気が出てくるんで、お店に。最近ちょっと、手を付けてなかったブログも更新して（笑）

田中： うん。イノッチの（笑）

井野： ちょっと動きを出して。そうするとスタッフも上がってくるんで。そういうの、繰り返すですね、なんか。楽しいですけど。生きてる感がありますけどね。

田中： そうですね。力が試せる場って、楽しいよね。

井野： そうですね。

田中： で、そういう経験がないと、さっきの野球の試合じゃないけど、その時、どう対応するのかとか。試される場で、思いのほか出来たとか、そういったものが引き出された時って、一皮剥けたみたいな感じですね。

..... つづく ^^

◆拡げていきたいという思いから商工会に

井野： そうっすね。自信がつくというか。そうなんですよね。それで、ずっとやってきましたね。ほんとは人と接するのもあんまり好きじゃなかったんですけど。

田中： うん。

井野： 内気なんですよ、ぼく。こう見えて（笑）

田中： いえ、そんな。

井野： 初対面だと、話をするのも苦手なんですけど。

田中： 私も。

井野： はいっ?? そんなことない。そんなことないですよ（笑）

田中： そんなこと、あるの……（笑）

井野： で、商工会の青年部に入ろうと思ったわけです。

田中： その、内気な部分をなんとかしようって？

井野： うーん。内気なのはだいぶ直ってきたんですよ。プライベートでお店を通じて友達が出来てきたりして。もっと更に、こう……「拡げていきたいな」っていうのがあって。

田中： うん。

井野： それで入らせてもらったんですよ。そしたら、やっぱりいい人が多くて。

田中： うん。おもしろい方、多いですもんね。

井野： この間、移動販売車の電気の配線を見てもらいたくて、稲垣崇さんに電話したら、「今からすぐ行く」って、すぐ来てくれて。

田中： うん。

井野： そこにお金が発生しないのに、すごい高能力だなんて。青年部ってそういうの、感じるんですよ。自分の利益だけじゃなくて、人を助けてあげたいとかね、仲間意識というか。そういうのって、なくならないですからね。景気不景気関係なく。

田中： うん。

井野： 地元で、地域密着型のお店をやって行こうと思っていると、そういうのは切っても切れないんですね。今そういう経験が出来てるだけでも、すごくいいことだなあって思ってます。自然とお客さんと繋がるんで。あからさまに「店に来て下さい」って言い回ってるような変な人の店に、絶対来ないですよ（笑）

田中： ね（笑）

井野： ぼくも下心があるわけでもなく、自然と繋がった人がお店を利用してくれたりだとか、持ちつ持たれつで。

田中： ええ。

井野： 地元だけの小さい殻に閉じこもってやろうって思ってるわけではないんです。でも、一番大事なんですよ。商売やってる地域で足元固めて。それからじゃないと、たぶんいろんなところに行けないんじゃないかと思うんですよ。

田中： 土台ですもんね。

井野： ええ。なので、『萬焼（まんしゅう）』も移動販売車でPRを兼ねてやってるわけです。あれも売上云々ではなく、『萬焼』を拡めるために走ってます。見た人が気になってお店を検索したら、刈谷にあるんだってね。そして刈谷に来た時に、うちの店を思い出してもらうような。ちょっと時間がかかってもいいんで、それをやってくことは、すごく意味があるんだなってやり始めて、3年経つんですけど。

田中： うん。

井野： 昨日も栄でイベントがあって、それはJ Cのなんですけど。

田中： J Cも入られてたっけ？

井野： いえ。入ってないです。移動販売車組合から連絡をいただいたので出させてもらったん

です。そういうところで、「あ、萬焼だ」っていうお客さんが、ここ最近が増えてきたのかなって思いますね。そういうのを肌で感じました。

田中： ええ。

井野： そんな感じですね、ぼくの人生。別に恰好をつけるつもりはないんですけど、派手に振る舞いたい時は振る舞いたいんですけど。やってることは、結構。

田中： 地道な感じ。

井野： そう！地味なんですよね。余力をね。今はね、力を蓄えときたいなって。で、勝負時にドカンって出したっていうのがあって。

田中： 勝負時に。

井野： 6年後ぐらいですかね。

田中： もう計画がある感じですね。

井野： 計画は常にしてるんですけど。計画として、ぼくの中で作っちゃうと、やらなくちゃ気が済まなくなっちゃうんですよ。

田中： うん。

井野： それって大事なことなんですけど、時代の流れってあるじゃないですか。何年後にこれがやりたいって、それに向かって、今を一生懸命突き進んでいたとしても、その時にそれがマッチしてないことだってある。でも、ひよっとしたらもっとすごいことが時代の流れで来るかもしれないし。

田中： うん。

井野： っていうのは、常に考えてるんですけど。だから、いろんな人と会って情報交換して。夜飲みに行くんでも、やっぱりいろんなことを吸収できるような人と飲みたいし。そういうお店に行きたいし。

田中： うん。

..... つづく ^^

◆お金をかける前にアイデアで勝負！

井野： だから今度の忘年会の会場にはすごく興味ありますね。

田中： あー、監獄レストラン（笑）

井野： 完全に料理で売ってないですからね。店の雰囲気とかね。昔流行った『ノーオンしゃぶしゃぶ』とか、あったじゃないですか。そういう系ですよ。

田中： うん。イロモノっぽいよね。

井野： ですよ。そういう感じ。だから考え方でいろんなお店が出来ますよね。いろんな人にいろんなお店のこと聞くんですけどね、スポーツバーなんてのもそうじゃないですか。

田中： ですよ。サッカーの試合の時にみんなお店に集まって、試合観戦しながらビール飲んで。

井野： そうそう。で、自然と友達になっちゃうじゃないですか。そういうの、すごくいいですね。 ということで、うちが企画したのがですね、クリスマス・パーティです。ピアノとバイオリンの。

田中： いいですねえ。

井野： なんか、子供に聴かせたいなって思って。ぼくが単純にバイオリンを目の前で、うちの娘に聴かせてやりたくて。

田中： へえ。

井野： たぶんそういう経験ってないですよ。ぼくも大人ですけど、バイオリンを目の前で生で聴く機会って、そうそうないですもんね。

田中： 私も環境的にピアノとか習わせてもらえなくて。この歳になってから名フィルとかコンサートに足運んだりすると、新鮮だったりするの。ほんと、そういう機会って、違う気がします。

井野： うんうん。ですよ。

田中： ピアノとバイオリン、いいですね。こういう方たちとは、どういう感じでお知り合いになったんですか？

井野： バイオリンの人はですね、刈谷の朝市に出てるんですけど。朝市に生演奏をしに来てくれてるんです。青年部の人と一緒に来てくれて、紹介してもらって。

田中： うん。

井野： うちでランチしながらお話しして。初めて来てもらった時に「今度クリスマス・パーティーしましょうよ」って気軽に言ったら「いいですね」って話になって。で、この間打合せして。うちも初めてなので。こういう企画。

田中： ご飯だけにとどまらない感じですね。これからの展開というものが。

井野： そうそうそう。うん。そうです。去年の1月に新年会やってるんですよ。スタッフもお客さんもみんな混じっちゃうような新年会にして（笑）

田中： 楽しそう。

井野： 40人ぐらい来てくれて。スタッフにも、バイト代はないけど、飲み食いはタダでしていいよって（笑）

田中： いいね（笑）

井野： お酒飲みながらお客さんと。そんな機会、まずないじゃないですか。

田中： ないない。

井野： で、知り合いの人が機材を持ってきてくれて、素人バンドみたいなのをやったり、スタッフの子も演奏したりだとか。それが結構楽しかったみたいで、「またやらないの？」って。

田中： うんうん。

井野： 今年1月はバタバタしてたんでやってなかったんですよ。それで、年末に何かやれないかなってことで、この企画を。

田中： へえ。

井野： アットホームなのが好きなんですよね。あわよくば、自分も一緒に入って楽しみたいんで（笑）

田中： とても距離が近い感じがしますね。

井野： そうですね。子供たちもたくさん来てくれるのを予想してるんですけど。大きなケーキを用意して、クリスマスの飾り付けをして、歌を歌いながら、みんなの目の前で切り分けてデザートにして……という感じですね。うちの社員の子をサンタクロースにして、クッキー2～3種類袋に入れて渡そうかなって思ってますけどね。

田中： へ～、楽しそう。

井野： あと、『奥さまランチ』っていうのもやってまして。

田中： それは限定なの？

井野： 限定です。1日20食。これも結構人気あるんです。パスタメニューで。

田中： この間、いただいたパスタもおいしかった。

井野： ありがとうございます！『奥さまランチ』ってしたのは、『奥さま』に目が行くかなっと思って。『お子さまランチ』ってあるじゃないですか。

田中： あるある。

井野： だから、『奥さまランチ』があってもいいかな、と思って。で、このネーミングにしたんですよ。この『奥さま』のさまが漢字だと、硬いじゃないですか。で、ひらがなにして。

田中： うんうん。

井野： で、これで検索すると、いかがわしいお店が出てきましたけどね（笑）これでよかったのか、未だに迷ってますけどね（笑）

田中： 笑

井野： これを始めたのは、もう8年前ぐらいですね。昔あった『ティーワン』って雑誌、知っ

てます？

田中： 知ってます。

井野： その雑誌の編集者の人とちょっと仲良くて。企画で、「1か月だけでもいいんでなんかランチ、作れませんか？」って。で、どうせなら、デザートに2品くらいつけて。小さいデザートが出た後、食べてる途中ででかいデザートが出てくる（笑）

田中： うふ（笑） すごいサプライズ感があって、いいです。

井野： ですよ。最初の頃は、「テーブル、間違えてるんじゃないですか？」ってよく言われたんです（笑）

田中： うふふふふ。

井野： で、「これ、ランチについてるんですよ」とっていうと、すごくお得感がある。それがすごい人気で、やめれなくなっちゃって（笑）

田中： あはははは。

井野： それで8年続いている（笑）で、どうせなら毎日違うパスタにしようって、いろいろやりはじめましたね。

田中： そっか。ターゲットは女性なんだ。

井野： 女性ですね！完全に。年代を問わず、ですね。

田中： 十分セカンドっぽい気がするけどな。

井野： 何がですか？

田中： 動きが（笑）

井野： そうでもないですよ。

田中： セカンドは、苦手だとおっしゃってたけど（笑）

井野： そうなんですけど……そうですか？ やりたがりなんですよ。いろんなことがやりたくて。

田中： うん。

井野： お金かかること、多いじゃないですか。改装だったり、内装を変えたりとか。そういうのにお金を使いたくないんですよ。まずは、「雰囲気ですれだけもっていけるか？」

田中： あー。

井野： まず自力で。

田中： アイデア勝負みたいな。

井野： そうですね。そういうのはありますね。店の2階は座敷でね。あそこも「何かに利用出来ないかな」って思ってた。

田中： うん。

井野： そういう時にピンポイントで出会う人がいて、なんか運命を感じるんですね、ぼく。出逢いだったりとか、偶然ではなく必然的に出会ったと思える人なんで。この人は『ベビーマッサージ』をやっていて、すぐ近くなんですよ。たまたま幼稚園の送り迎えで、店の前を通ってた人で。

田中： うん。

井野： ぼく「と話がしたい」って名刺を持ってきて、「ランチ付き、ベビーマッサージをやりたい」って。ベビーマッサージをしてからランチを食べて。うち、ランチ代しか、もらってないですよ。「場所代も取って下さい」って言われるんですが、「めちゃめちゃ有名になったら、場所代がっばり貰うんで、いいですよ」って。うちはランチ食べてもらえれば、それでいいんで。

田中： うん。

井野： そういう感じで始まって、この人は2年ぐらい続いていますね。

田中： お座敷だったら赤ちゃんいても出来ますもんね。

井野： そうなんです。今個人でやってる人、すごく多いじゃないですか。

田中： ええ。

井野： メイクやってる友だちもいて、その友達も知り合いから紹介してもらったんですけど。

田中： うん。

井野： 紹介してもらったら、実はすごい縁があって。子供が幼稚園行ってた時の先生の娘なんです。で、その人が来て、「メイク教室をやりたい」、「じゃあ、やりましょう」と。

田中： うん。

井野： 最近、「自分でネイルやってみましょう」というのも始めて。その人からどうやって売り出していこうかとかの相談も受けてて、いっそ「お客さんに教えちゃったらおもしろくないかな」って。

田中： うんうん。

井野： そしたら、「やらしてください」と。で、2か月ぐらい考えて。最近連絡が来て、12月にやりますけど。生徒さんには手ぶらで来てもらって、教えてもらって、ランチ食べて帰る。自宅だと、そんなに人が入れないじゃないですか。

田中： ですね。

井野： うちを文化センターみたいな感じで利用してもらおうかと思って。使用料はランチを食べてもらおうということで。

田中： 井野さん、プロデューサーさんみたい。

井野： ぼくですか？ そ……んなことはないですよ。そんなの思ったことないです。

田中： ふふふ。

井野： 引き出しは狭いです（笑）この人も飲み屋さんで知り合ったんですよ。

田中： そうなんですか？

井野： たまたま隣に。ひとりで飲みに来てて。ぼくも結構ひとりで行くんですけど、そこ、いいお店で。

田中： なんていうお店なの？

井野： 駅の近くの「オハナトリトン」っていうお店で。

田中： ひとりでいっても大丈夫なの？

井野： むしろ、ひとりで行った方がいいです。

田中： 今度行ってみようかな。

井野： 行ってください。いいお店ですよ。井上さんっていう店長さんがいます。ぼく、その時の会話を今も覚えています。中日の監督だった落合さんの話や、『ルミノックス』っていう時計が二人とも大好きで、たまたま井上さんもそれをしてて、「同じ時計じゃないですかー」って話から、仲良くなって。

田中： へえ。

井野： しばらく行かなかったんだけど、奥さんと飲みに行った時にたまたまピラ配りしてて、「本日オープンです」って。で、他に行きたいお店もなかったし、そこに行って。奥さんとふたりでカウンターに座って話してて、「あの時の人だよな」ってなって。

田中： うん。覚えてらしたんですね。

井野： 覚えててくれました。お店も雰囲気がいいんですよね。で、その日奥さんが免許証を落として。

田中： あら。

井野： 次の日行った時に「また来てくれると思ってました」って。またそれで近くなって。

田中： うん。

井野： それからよく行ってますね。多い時は週に4回とか。

田中： 日参ですね（笑）

井野： そこで、ぼくの店の萬焼を広めてくれてね。差し入れに持って行ったら「精一杯広めます」って、その場で焼いてお客さんに出してくれたりとか。

田中： へえ。

井野： 店長の井上さんは、人柄もよくて、すごく丁寧で、接客も気持ちがいいんで。申し分ないですね。料理もおいしいし、雰囲気もいい。

田中： じゃ、私も行く。そういうお店、探してたんです。

井野： ぜひ、行ってください。すごいいですよ。いろんな繋がりだったり出会いがあったり。ネイルの人も、そこで知り合った人です。

田中： おもしろい。ご縁がすごくいい感じで繋がってるんですね。

．．．．． つづく ^^

◆自分だから来てくれるというお客さんを増やす

井野： そうなんです。それを忙しくて、ここ1年ぐらいですかね、移動販売車でイベントとかもいろいろ行ってたんで、ちょっと、こう、疎かになってた部分があって。お店に来てくれた人たちとの話もそうだし。

田中： うん。

井野： 「ぼくがお店にいて、お客さん迎え入れないといけないかな」って、ちょっと後ろめたい気持ちで商売に行ってたんで。お客さんから、「この間、行ったけど店にいなかったね」って感じのメールをもらったりとか、いろいろあるんですよ。

田中： うん。

井野： ですから、ちょっと原点に戻ろうと思ったんですね。それでまたブログも始めました。確かに、昔はもっとマメにやってたよなって思うし、同時に店でのイベント事もどんどん立ててやっていきたいなとも思うし。

そこで「自分だから”来てくれるお客さん”というか.....そういうお客さんをもっと増やしていきたいな」と。そうすれば、もしお店をコロッと変えたとしても、たぶんお客さんも楽しめるかなって。

田中： うん。

井野： 「丸来（まるらい）」というブランド力を上げるように。「人としての魅力をもっともっと磨いた方が、商売が早いのかな」って思います。消費税上がっても、地元ならではのお店にしていきたいっていうのがありますね。今はその準備段階ですね。まだまだですね。全体の1割ぐらいですね。

田中： なんか、外に向けて動いて、「陣地、行動範囲が広がりました。今度は土台をそこまで持ってこう」みたいな。そういう陣地の広げ方してるような感じですね。

井野： そう。そうですね。うん。それが一番堅いですよね。一気に広げて、勢いだけで広げても対応しきれなかったりして、それって結局名前が傷つくというか。

田中： うん。

井野： ぼく2代目なんで、名前や看板は傷つけないなっていうのはあるし。2代目って結構大変なんですよ……って自分で言っとっちゃいかんですけど。なんか、出来て当たり前なんですよね。よく言われるのが、「2代目は楽しとるな」みたいな感じで。

田中： 先代からの財産で、みたいな？

井野： そうですね。親の七光り的なイメージ。そういうイメージがあるんで。だからこそ、反発したい気持ちも出てくるわけです。

田中： うん。

井野： 反発してたら、守っていけない部分が出てくるし。その葛藤が40歳になって出てきて。やっとどうしたらいいのかなってというのが明確に分かってきたのかなって思います。

田中： あー。

井野： ただそれが明確なのかも、わかりません。というのも、現段階では迷いはなくなったなっていうのはあるんですけど、また時代がどう変わって行くかは分かんないわけです。今のところ、「この自分の考え方で果たして何年通用するか」っていうのも観てるのもあるんですけど。

田中： うん。

井野： だから、「景気に左右されないようにしないとイケないな」っていうのがありますね。うん。そこですね。

田中： すごく、堅実な感じがします。

井野： 堅実ですかね？

田中： うん。

井野： 性格はそうでも、ないんですけどね。でも、お店は、そうですね。ふふふ。

田中： 別人格なの？（笑）

井野： そんなことは、ないですよ（笑）ぼくは、真面目は真面目ですよ。

田中： 別に茶化してるわけじゃないの（笑）

井野： はははは。

田中： 入っているいろんな面があるじゃない？ だから出会う人によっても、出てくる面が違うっていうの？ 自分の、引き出される部分が違うというか。

井野： そうですね。

田中： 経営、お店って考えられた時の井野さんと、違う人格もあるのかなって。

井野： そうですね。

田中： 対応する人格っていうのかな。底辺は繋がっていて、切り離すわけじゃないけど。その場で一番最適なものってある気がして、バランスをとってらっしゃるのかなって思います。

井野： そうですね。八方美人なんですかね。

田中： いやあ、それとはまたちょっと違うような感じはするけどお。

井野： ははは。まあ、意識はしてますからね、その辺は。でも、「自然に接したいな」っていうのはあるし、思ったことも言っちゃうし。失礼な時もあるんですよ（笑）

田中： あははは。

井野： はははは。

田中： 井野さんは、繋がりということを大切にしていらっしゃって。でも守りに入ってる感じがしないですね。

井野： はい！ 守っては、ないですね。

田中： 守ってないよね。

井野： 守りたくはないですね。守りだけになっちゃうと、なんにも出来なくなっちゃうんで。

田中： 守りっていうと消去法になっていく。

井野： はいはいはい。ですね。

田中： リスクがある事を避けてくと、どんどん狭くなってく感じがするし。

井野： そうですね。でも余分なことは、やっぱりありますからね、今までやってきた部分で。間違ってたということではなくて、時代が変わって行くにつれて、これはいらなくなっていくのが流れ的に出てくるんで、自然と。

田中： うん。

井野： その辺を上手に切り離して新しいものを増やして。まあ、メニューと一緒にですね。

田中： さっきの鉄板メニューとか。

井野： そうですね。そういう感じで。でも、人はそうしたくないですね。

田中： うんうんうん。

井野： なので、「この人は使えないからって切る」とか.....そんなことやとったら、自分がえらいめに遭うんでね、ゆくゆくは。だから、「今いる子たちの力でやれる範囲で、最大限のことをやって行きたいな」というのは、ありますけどね。

田中： ええ。

井野： あまり意見も押し付けたくもないですし。みんなの意見も聞きながらやってるんですけど。時には学生さんや主婦の意見を取り入れたり。価格も見直そうかなって思ってます。消費税、上がるじゃないですか。

田中： はい。

井野： 上がるタイミングで、値下げしたいんですよね。その前にいったん、値下げしようかなって思ってるんですよね（笑）値下げして、端数とって、うまい棒とか、ポテトチップスみたいに。値段は据え置いてね。そういった感じでたぶんやれると思うんで。

田中： うん。

井野： でも質は落としたいくないんで。

田中： なんか、パティシエっぽい（笑）

井野： そうですか？ 金髪にしましょうか？（笑）

田中： グラム単位のね。ケーキとか分量がかなり正確に決まってるじゃないですか、理科っぽく。なんかそれをしてる感じがします。価格、お店の経営って観てる時に、数値的に最適な分量とか、そういったものを常に。こう、はかりがある感じ……？

井野： うーん。

田中： それが、時代の流行りとかを加味したり、割合を変えたりとか。天秤、はかりで常にバランスをとりながらやってるような。

井野： そうですか。天秤座なんですよ、ぼく。

田中： 天秤座なの！？

井野： そうです。

田中： ぴったりだね。

井野： それで、丑年で。

田中： うん。着実な歩みっていうのかな。けどお、気に入らないところには行かない感じだね。ふふふふ。

井野： そうですね（笑）気に入らないのは、ダメなんですよ。ほんとに。そうですか。ありがとうございます。そんなにいいお言葉を頂けまして。そういうつもりではやってないんですけど（笑）

田中： ふふふ。そんな感じがして。さっきの陣地の掘り方、動き方とか。「あんまり遠くに行っちゃうと、帰って来る前に力尽きちゃう」とか（笑）そうではなくて、ちゃんと計算していて、「ここまで行くんだったら、ここで折り返して」……って。「それには食料と水はこれだけいるな」みたいなものを常に持ちながら動いてる。

井野： ああ。

田中： 「ここまで来たから確実に畑を拡げよう」とか、「今度は馬車でこよう」とか。そんな感じでね、陣地を拡げていくような感じがするの。

井野： 为什么呢ね。楽しんだ方がいいんでしょうかね？ やっぱり。こう、苦しくて苦しくてどうしようもない状態で、いいアイデアなんて出ないじゃないですか。

田中： うん。

井野： 楽しみながら、ゲーム感覚じゃないけど。

田中： うん。

井野： 決して儲かっては、ないです、うち（笑）

田中： ふふふふ。

井野： みんなに言われるんですけど（笑） ここ、ちゃんと書いといてください（笑）

田中： そのまま書くので（笑）

井野： よく、「井野くん、儲かっとるねー」とか。イベントしてると、「そんなに儲けてどうするの？」って言われるんですけど、全然！ 儲かってないです、うち（笑）

田中： あははは。そっか。ご商売で、成る道ってどんなですかね？

..... つづく ^^

◆食べてくれた人が笑顔になる、それが原点

井野： ぼく、基本、原点に戻ると思います。やっぱり食べてくれた人が笑顔になってくれるのが一番なんですよ。

田中： うん。

井野： 今までずっとやってきて、休業時代は“作業”になってました。自分の中でも、料理＝作業みたいな感じになってて。そこから休業時代でも上に行けた時に、やりがいがあって。お客さんの顔を見た時に、そこでふと料理人を目指した頃の原点というものを思い出して。

田中： うん。

井野： そこが終わって、横浜もいったんですけど。それは店の立ち上げだったんですけど、そこでもいろいろ苦労があって、また失いかけて。で、ここに戻ってきて、昔のお客さんが喜んで食べてくれるのを見た時に、「やっぱりこのためにやってたんだな」って。よし、もっと大きくしたい。店を拡げようと。

田中： ええ。

井野： で、人もお客さんも増えるし、仕入れ先も増える。そうなるともた自分の中でゆとりがなくなってくるじゃないですか。結局ゆとりがなくなると、いろんなこと考えだすんですよね。

田中： うん。

井野： だから、またその原点を見つめ直したいなって思って。それをまた最近思い出してきたかなって思います。最近じゃ、いかんのですけどね。

田中： ううん。

井野： 移動販売もそうだし、『萬焼』は自信のある商材なんですね。刈谷市以外、名古屋、県外の三重県、岐阜県、静岡とか行っても、最初は「なにこれ？」っていうところから入るじゃないですか。そこから説明をして、商品をわかってもらって、購入まで繋げるのって、どれだけ大変か。それはやってみて、はじめて分かるんですよね。

田中： ええ。

井野： お店を知ってて、メニューに書いてあるから食べてくれるんですよね。だけど余所に売りに行って、知らないものを買ってもらう訳なんで。三越の催事だってそうだし、試食して首ひねって帰る人もいるし。初めそれを見た時に受け入れられないっていうか、自分が今までやってきた自信もなくなるような感じだったんですけど、そこを乗り越えないといけない。そういうこともあるので、外に行ってもよかったなっていうのもあるんですけど。

父親は『萬焼』を作った人で、ここしか知りません。ぼくは、これを広めるために活動をしてるんで、そうした時に、父親も一緒に連れてきたいなっていうのは昔から思ってたんですけど、もう70なんで、そこまで働かせるっていうのも（笑） まあ、いろいろ上手に伝えながら、身体も労わりながらやってるんですけど。

田中： カードとして、切れるものがどんどん増えてる感じだよね。

井野： そうですね。たまに間違えたりするんですよね、出すタイミングとか（笑）

田中： あははは。しまった！……って（笑）

井野： そうそう（笑）

田中： おもしろい。どうもありがとうございました！！

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

井野さんにもインタビュー後、おつきあいいただきました。

まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

<いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つ

づきは井野さんのおこたえデス ^^

田中： 後、もう少しよろしいですか？

井野： いいです、いいです。

田中： 月並みですが、小さい頃はどんな子供でしたか？

井野： 内気でしたね。小学校までは、自分の意見を言わなかったですね、友達にも、家でもそうだし。

田中： 何して遊んでいたの？

井野： 『泥警（どろけい・泥棒と警察）』ですかね。

田中： 友達と遊ぶんだよね。

井野： そうですね。一応。

田中： こもる感じではなかったのね。

井野： こもらないですね。友達の家に行ってゲームしたりとか。マージャンに似た『どんじやら』とかやってましたね。うちはあんまりおもちゃを買ってもらえなくて。兄弟は4人います。姉が二人に、ぼく、妹がいます。

田中： 女ばかり。それでソフトなのかな（笑）

井野： ソフトですかね？（笑） たまにハードだって言われるんですけど。

田中： どんな時に？（笑）

井野： えっと、敵が出た時。

田中： 敵？ 井野さんにとっての、敵って？

井野： 敵じゃないのかな？ 戦う時は戦います。いろんな意味で。ぼく、間違っただ人が嫌いなんですよ。

田中： うん。

井野： 間違っただ人っていうか、道徳のない人。ポイ捨てしたりする人、呼び止めて拾わせるんですよ。それでもめたことがあります、過去に（笑）

田中： ふふふ。

井野： なんか許せないんですよね。万引きも見つけたことあるし。ちょっとお店の人呼んで、「ちょっと注意してみて」って。間違っただことを見ると、正したくなるんですよね。かといって、自分に力は全然ないんですけど、言わずにはいられないっていうか。嘘もつきたくないなっていうのも。ジョークまでならね、多いと思うんですけど、嘘はいかんって。

田中： ですね。

井野： だから、敵っていうと、やっぱりずるいことしてる人とか。うちも騙されたこともありました。注文を受けて『萬焼』を送ったら、異物混入してたって言われて。確認で現物を送ってもらうか、写真撮ってを送ってくれるように対応してるんですけど。それをしてくれない、あるお客さんと言い争ったことがあって。

田中： ええ。

井野： 問題のないものを再度送ったんですけど、1年ぐらいしてから刈谷署から電話かかってきて。その人、詐欺師だったんです。他にもいろいろやってみたいんです。他の人のカード使ったり。悪い人って、直感的に分かるじゃないですか。そういう人ですね。あれっ、質問って？（笑）

田中： どんな子供だったって質問だったんだけど、私がいろいろ聞いちゃったから（笑）

井野： あはははは。

田中： 好きな本を一冊選んでください

井野： 本ですかー。ぼく基本本読まないんですよ。みんなにも、読め読めって言われるんですけど、読めば勉強になるとは思うんですけど、頭よくないんで、活字が入ってこないんですよ。たぶん、読むのに人の3倍はかかりますね。

田中： ふふふ。

井野： だからわかりやすい文字大きめの本だったりとか、料理本だったり。そんな感じです。後、情報はリアルに人と話したり、成功してる社長さんに話聞いたりとか、頭に入ってくるリアルな方法が好きですね。

田中： 聞いた情報は、忘れない感じなの？

井野： 忘れないですね。あと、基本、身体で覚えますね。やって覚える。

田中： うん。視覚ではなさそう。

井野： 視覚はないですね。一番苦手ですね。人の顔と名前がまず一致しない（笑）今はだいぶ直ったんですけど。訓練ですね。名刺貰ったら、特徴を書いとくとか。

田中： 私も苦手。

井野： 今はFBがあるから、だいぶ楽なんですよ。あれ、ほとんど仕事だと思って使ってるんで、ぼく。顔写真もあって、生年月日とか、アップされた記事読むと、どういう人か分かってくるし。人と会う前にはチェックしといて。

田中： いつも必ずする習慣はありますか？

井野： 習慣は、あんまりないですね。

田中： 今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか？

井野： そんなには、ないかな。いや、あるんでしょうけど、忘れちゃうんですよね、それを乗り越えれば。あんまり大変だって思っちゃいけないって思ってるんで。

田中： 思っちゃいけないって、思ってるの？

井野： 乗り越えちゃえばいいのかなって、感じですね。

..... つづく ^^

田中： 3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか

井野： 3つですか。まず優秀な部下が欲しいですね。二人欲しいですね。後は、必ず流行るお店が欲しいですね。

田中： お店が欲しいの？

井野： 流行る土地が分かるアプリが欲しいですね。iPhoneに入ってるね、「年間でこれぐらい売り上げがありますよ」という。絶対ないですけどね。それ、ぼくしか使えない（笑）

田中： 笑

井野： ドラゴンボールのスカウターみたいなもの（笑）

田中： お店以外だと？

井野： 店以外だったら、時間が欲しいですね。ぼくだけ48時間になってほしいです。

田中： ぼくだけ（笑）？ 何するの？

井野： 自分のことやりたいですね。店以外のこと。もっと子供と接したり、自分のために使いたいです。趣味とか。趣味ないですけどね（笑）

田中： あははは。今の感じだと、常に頭の中が動いてる感じがするよね。

井野： ですね。動かしてますね。

田中： 寝てる時だけ、シャットダウン……みたいな感じでそれ以外はずっと動いてる。

井野： そんな感じですね。だから血圧高くなっちゃう（笑）

田中： うん。

井野： リラックスする時はお酒飲んだり。プチ旅行行ったりとか。

田中： 強制的に止めないと、止まらない感じなのかな。

井野： うん。旅行行くじゃないですか。パソコン、持って行っちゃうんですよね。

田中： ふふふふ。

井野： やらないと思うんだけど、なんかあったらいけないんで持って行って（笑）で、1回だけ岐阜の山奥に行った時、電話も繋がらないし、もちろんパソコンも。

田中： うん。

井野： その時に、初めて、「あー、ゆっくり休めっていうことかな」と。

田中： （爆笑） その時になって初めて？

井野： うん。その時出されたご飯が、すごく美味しかったですね（笑） もう、なんも考えん
でいい（笑）

田中： そこで初めて分かった感じなの？（笑）

井野： そうですね。諦めた。ふふふ。

田中： それが出来ることって、井野さんにとってすごく大きなことのような気がする。それが自分で出来るようになったとしたら。環境的にそうなのではなくて？

井野： あー。つもりはあるんですよね。でも切り離せないですね、全然。

田中： 人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか

井野： 話し方ですかね。

田中： うん。

井野： ぼく、横柄な人が嫌いなんで、柔らかいしゃべり方が好きだし、そうなりたくなっ
ていうのもあるんで。

田中： 人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあるとしたら？ これはさっきお話の
中で。道徳のない人。

井野： ですね。迷惑駐車も嫌いなんです。駐車場があるのに入れないとか。

田中： あー、私も許せない。障害者スペースに止める人とか。

井野： そうです。そうです。1回おばさんに言ったことがあります。障害者スペースに平気で止めて、買い物に行くんですよ。帰ってきた時に、「おまえは、頭が障害か！」って。

田中： 人格障害（笑）

井野： そうです。でも、なに、この人……みたいな顔されて、すごいおばさんでしたよ。

田中： なんか通じない人って、通じないんですよ。

井野： そう！開き直るんですよ。 「なんで、止めて悪いの？」って。

田中： 障害者スペースが、どうしてお店に近いところに設置してあるのかというのを理解すれば、普通止めないよね。なんで、それがわからないんだろうって、すごく不思議に思う時がある。

井野： ですよ。

田中： 飲酒運転とかも、本来は法律で禁止じゃなくて、そもそも飲むと判断が鈍って事故が増えるから法律で定められたわけで。ちょっと考えれば分かる事なのに、そういうところが欠如してる人が多いように感じますね。

では、全く何の制約もないとしたら、何をしますか？

井野： 何しますかねえ。法律もない……きっとダメ人間になりますね（笑）

田中： どんなダメ人間（笑）？

井野： お酒を飲みたいときに飲んで、遊びに行っって。

田中： それって、ダメ人間なの？

井野： いや、どんどんエスカレートしていくんですよ。一回きれると。

田中： 今までできたことって、ある？

井野： ないっすね。

田中： うん。ずーっと天秤座がいる感じがする（笑）

井野： そうですね。

田中： それを手放すことはなさそうだもん。最後の理性的な部分を。

井野： 手放す寸前はいろいろあったんですよ。でも、ぼく、現実に戻るんですよ。

田中： うん。

井野： 大騒ぎして帰ってきて、次の日、「楽しかったなー。でも、誰かに迷惑かけてないかな？」とか考えちゃうんです。ふふっ。

田中： ふふふふ。

井野： ああ、やらなきゃよかったってこともあるんで（笑）万燈祭りの時、そうでしたね。

田中： あはははは。テキーラ（笑）

井野： あの時、ぼくすごく反省したんですよ（笑）

田中： え？何を反省したの？

井野： 飲みすぎてわけ分かんないこと言ってなかったかなとか。なんか移動販売車のとこまで行って、スタッフに絡んでたらしいんですよ、ぼく。で、次の日に、「昨日はごめんね」って謝ったり。たぶん仕事しないでしょうね、制約がないとしたら。飲みたいとき飲んで遊びたいとき遊んで、気の合う人と、気をつかわない人と。という空間があれば、いいですね。

田中： そっか（笑）井野さんの気の置けない人って、どんな人？

井野： 同級生ですかね。奥さんでは、ないですね。気をつかわない存在であってほしかったんですが、やっぱり一緒に仕事やってるじゃないですか。

田中： うん。

井野： どうしても仕事の話になってきちゃったりしてもめたり。仲悪くはないですけど、仕事の話になると、お互い真剣なんで。

田中： そうですよ。仕事って、仮面じゃないんだけど、なにか役割的なものをまとう場でもあると思うんですよ。

井野： うんうんうん。

田中： それがない時が、同級生って場所なのかなって。

井野： 多分そうなんでしょうね。昔から、性格も知ってるし、分かってくれてるし、何をしようが笑って許してくれるし……っていうところでしょうね。

..... つづく ^^

田中： うん。聞くとムカッってくる言葉ってありますか？

井野： 言葉自体はないです。偉そうなしゃべり方は嫌いですけど。上からとか。

田中： 落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか？

井野： お酒ですね。家で飲んでたらダメですけど、外に飲みに行けば。飲みに行ってそこでいろんな話したり、聞いたり。

田中： 何をしている時が一番楽しいと感じますか？

井野： 子供かなあ、やっぱり。娘ですかね。

田中： 娘ってかわいっていいますよね。

井野： そうですねえ（笑）

田中： 今一番欲しいものは何ですか？

井野： あんまりないですね。しいて言えば、土地ですかね。商売の出来る、土地。なんかがめつい人みたいですね、ぼく（笑）

田中： ううん、全然。いい感じ（笑）
あなたの萌えポイントを教えてください。

井野： どっちの、もえですか？ 燃えるのか、萌え萌えなのか（笑）

田中： 萌え萌えで（笑）キュンってくるような。

井野： キュンは、娘ですね。

田中： かわいんだー。

井野： かわいいですね。嫁に行かせたくないですね。

田中： 男親って、それ、よく言いますよねー（笑）

井野： いやですね。

田中： 今何年生なんですか？

井野： 来年、小学校1年生です。

田中： 超かわいい！

井野： 基本あんまり好かれてないですよ、娘に。

田中： そうなの？

井野： そうなんです。昔から「お母さん、お母さん」なんで。もの買ってほしい時と、コンビニ連れて欲しい時は、「パパ、パパ」って。いつもは「おとう」なんですけど（笑）

田中： あはははは。おねだりの時は（笑）

井野： パパです（笑） で、手を出したタイミングで分かるんですよ。機嫌がいいか、悪いか。機嫌がいい時は、手を出すと飛びついてきて、スリスリしてくるんですよ。その時はね、たぶん、すごい顔してますよ、ぼく。デレデレの顔してます（笑）

田中： あはははは。

井野： その時が一番でしょうね。

田中： いいですねえ（笑）

今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、ふたつ語って下さい。

井野： ふたつ。出来事。急に聞かれると分かんないですね。

田中： うんうん。

井野： 青年部もひとつですね。それと、フレンチ、洋食をチョイスした時ですかね。そっから考え方がちょっと変わったんで。それまでは、中華をやらなくちゃいけないって思ってたんで。継ぐ=同じことをやらなくちゃいけないと。

田中： 共存の道がそこにあったみたいな。選択肢が広がったような感じですか？

井野： そうですね。そんな感じですね。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか？

井野： なんでしょう。いい意味で、ですか？

田中： なんでも。

井野： 使命ですかね。責任感。丸来の看板、だけですね。

田中： それを大きくしていくこと？ 守っていく？

井野： 全部ですね。自分が潰したくないし、やれて当たり前だと思ってる人に、「二代目がやったぞ」というところをもっと知ってほしいし。認めてほしいんでしょうね、きっと。世の中の人にも、親にも、家族にもそうだし。同級生も。それがいいのか悪いのかはわかりませんが。

田中： それが原動力に。

井野： でしょうねえ。誰のために仕事をしているのかっていったら、自分のためなんだろうけど、それだけじゃないなっていうのもありますね。

田中： 今死んでも悔いはありませんか

井野： ありますね！ 悔いだらけです（笑） やりたいことがいっぱい。

田中： （笑）

世界に向けて演説をしたら、何を一番伝えたいですか？

井野： 世界……あんまり考えてないです。

田中： 身近な方に、何か伝えるとしたら？

井野： 思いやりですね。思いやりがすべてですよ、世の中って。自分のことしか考えなくなったら、終わりですね。どんな世界でもね。それは怖いですね。飲食の世界も産地偽装とか、あの辺も利益のことしか考えてないから、そうなっちゃうんだろうし。原発も、戦争もそうだし。思

いやりがあれば、全部解決できますよね。

田中： それを、伝えたい感じなんですね。

井野： そうですね。自分のことしか考えてない人が多いです。ぼくもそうなんですけど、自分が一番かわいいのは分かるんですけどね。人のためにも、もうちょっとなんかやりたいですね。それを自分がやってから、演説したいですね（笑）

田中： ふふふ。私、自分がお腹すいてるのに、先に差し出せないなー。

井野： そうですよ。

..... つづく ^^

田中： 生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか？

井野： 男ですね。男がいいです（笑）

田中： どうして？

井野： 男は、いいですよ（笑）

田中： あははは。どんなところが？

井野： 男のいいところですか？ 男、よくないですか？

田中： 男、やったことないからわかんない。

井野： ぼくも女の人、やったことないからわかんないけど、子供を生まなくちゃいけないとか。

田中： 痛み？

井野： 痛み。ぼく、痛みとかに弱いんですよ。それに、男はいいですよ（笑） 男、好きです（笑）

田中： 分かりました（笑） その男っていうのが、『漢（おとこ）』って感じなんですけど。

井野： そう、でもない、ですよ（笑）

田中： あははは。そうじゃないの？

井野： たぶん、ボロボロになって行きます（笑）

田中： 世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、何を消し去りますか？

井野： 犯罪ですかね。

田中： 例えば、どんな？

井野： いろんな。もっと治安がよくなって欲しいですね。争い事がなくなってほしい。でも、争い事がなくなるとおもしろくなくなりますかね？

田中： うーん。どうだろ。争うって言うてもいろいろあるし。

井野： ですね。何も感情がない国になったら、それはそれでおもしろくないし。

田中： 自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、教えてください。これもさっきの「ポイ捨てやめなよ」っていうような？

井野： ですね。後、飲むとだらしなくなる、とかですかね。ぼく、お酒飲むと、スイッチ切れるんですよ。

田中： じゃあ、この間のテキーラはまずかったね（笑）

井野： まずかったです（笑）完全にスイッチオフでしたね。

田中： 自分のキャラを一言でいうなら？

井野： キャラないと思ってます、自分で。

田中： それは？

井野： インパクトないです、ぼく。印象深くない、普通だと思っています。そんなにずば抜けた人じゃないし。楽しい方がいいかなとは思ってますけど。言うならば、『プラス思考になれないひと』だけど、『プラス思考に憧れてるひと』かな。

田中： かわいい（笑）

井野： そんな感じですか（笑）

田中： 今一番大切に思っている事（もの）って、何ですか？

井野： 思いやりですかね。ぼく、人にいいことすると必ず悪いことが自分に起こるんですよ。

田中： いいことすると、悪いことが起こる？

井野： そうなんです。親切心を出すと、ダメなんですよ。昔から。考えすぎかもしれないですけど、お弁当を配達してて、川沿いを自転車で走ってたら蛇がいたんです。轆いちゃいかんって

よけたら、弁当がくちゃくちゃになったとか。そういうことです。

田中： なんだろ。仮に「蛇、轢いてもいいや」ってしてたら、そのタイミングで次の交差点とかで大きな事故してたかも、とか。

井野： うーん。考え方ですかね。まだまだですね（笑）

田中： あははは。なんかね、交通事故とも、その時間、タイミングで、この人とこの人が遇わなければ事故にならなかったっていう『魔の時間（タイミング？）』があるらしいです。だから出掛けに鍵がなくて、家を出るのが遅れて遅刻したっていうのも、一見マイナスが目につくけど、実はその『魔の時間』を避けることが出来ていたのかも、なーんてこともあるんじゃないかって、思ったり。

井野： ほー。ぼく結構そういうの信じるんです。

田中： 人間万事塞翁が馬の話もありますね。つまり……（中略）……ですから、出来事って切り取るタイミングや、その時の心持で意味が変わるんだらうなっていうのは常に持つてる感じがします。

井野： 勉強になりました。

田中： そんな……。

今日のこの時間で、何か気付いたことはあったら教えてください。

井野： いろいろありましたね。ものごとをどこで切り離すか……ですね。

田中： え？

井野： さっきの話です。それはすごい考え方が変わりますよ。それはすごいですね。調子がいい時は、そう思えるんですよね。でも、いっぱいいっぱい時は、そういう考え方が出来ない。

田中： うん。

井野： そうなりたいですね。そうならなきゃ、いかんですね。「プラス思考になりたい」じゃだめなんですよ、なりきらないと。努力じゃないですもんね。自然にやれないと意味がないですもんね。努力してプラス思考にしていると、どこかにストレス溜まる。

田中： ですね。

井野： がんばります（笑） 自然にがんばります。ありがとうございます！

田中： ううん（笑） 意味わかんないけど（笑）

井野： 励まされた気分です。

田中： うふ。今日はどうもありがとうございました！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< ace-support@samba.ocn.ne.jp >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト*ペディア 15 <井野寛祥 氏>

<http://p.booklog.jp/book/82396>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/82396>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/82396>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ